

発行 2023.9

SAGA COLLECTIVE

地球にやさしい取り組み

サステナビリティレポート 2023



1. はじめに	3
2. SAGA COLLECTIVE のはじまり	4
3. 「人、社会、地球にやさしい」の心がけ	5
4. 「地球にやさしい」は世代と業種を超えたテーマ.....	6
5. SAGA COLLECTIVE のトランジション戦略.....	8
6. SAGA COLLECTIVE の取り組み	15

1. はじめに

SAGA COLLECTIVE の使命

地域（自然、伝統、技術、コミュニティ）を次に繋げる。安心して継承する舞台を整える。

SAGA COLLECTIVE は 11 社、10 業種から構成されています。諸富家具、有田焼、うれしの茶、神埼そうめん、佐賀海苔など、佐賀でものづくりをしています。

どの産業も自然の恵みなくして、成り立ちません。調達・製造・販売といった事業活動を自然に寄り添いながら行ってきたことが、100 年を超えて継承され続けてきた秘訣です。

各社には 30 歳前後の後継予定者がおり、目の前の事業承継はもちろん、次の 100 年の持続可能性を高める形を模索しています。

(諸富家具)
レグナテック



(醤油・味噌)
丸秀醤油



(佐賀海苔)
三福海苔



(うれしの茶)
小野原製茶問屋



(ゆず製品)
川原食品



(日本酒)
天山酒造



(うれしの茶)
徳永製茶



(和紙)
名尾手すき和紙



(有田焼)
李荘窯業所



(神埼そうめん)
井上製麺



(鍋島緞通)
吉島伸一鍋島緞通



2. SAGA COLLECTIVE のはじまり

2017年に活動がはじまりました。諸富家具、有田焼、うれしの茶、佐賀酒、佐賀海苔などの海外輸出に取り組む佐賀の事業者が、情報交換を目的とした異業種交流会で一堂に会したことがきっかけです。

各社は、ホテルやレストランをターゲットとしており、同業種であれば競合となりますが、異業種であればお互いに取引先を紹介し合うことで、さらなる販路開拓につながると考えました。

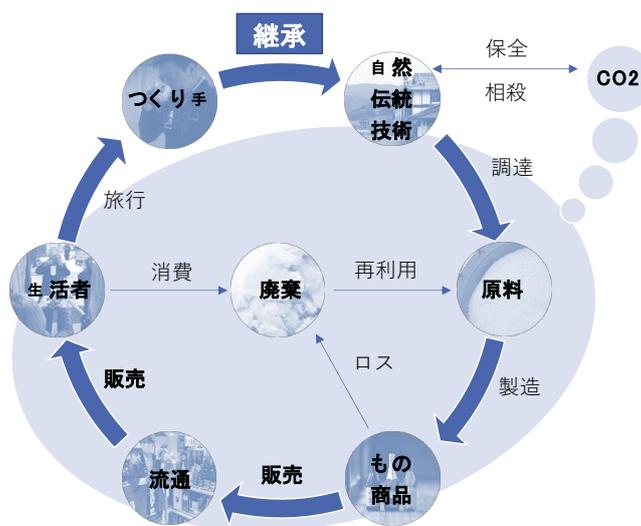


3. 「人、社会、地球にやさしい」の心がけ

当初のグループ活動の目的は海外販路の開拓でした。現在も販路開拓が重要であることに変わりはありませんが、新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、各社はそれぞれの事業活動の全体像を意識するようになりました。

11社で議論を重ね、「次の100年の持続可能性を高める。まずは目の前の事業承継を円滑に進める。」ことが目的で、販路開拓はその一つの手段であると、目的と手段を整理しました。

現在は、「エシカル（人にやさしい、社会にやさしい、地球にやさしい）」を SAGA COLLECTIVE の活動における心構えとし、各社の事業活動が循環していくことを目指しています。



循環型事業のイメージ（継承を目的に、販売はあくまで手段）

4. 「地球にやさしい」は世代と業種を超えたテーマ

SAGA COLLECTIVE は、次の 100 年の持続可能性を高めるため、事業を渡す人と受け取る人の

双方が安心して継承できる舞台を整えることを目指しています。

特に気候変動は、11 社共通の悩みです。私たちは困っています。

例えば、佐賀の海苔は、2022 年シーズンは記録的な不漁となり、19 年続いた生産量および販

売額日本一の座を明け渡しました。色落ちが発生し、質もあまりよくありませんでした。雨が降

らず山の養分が有明海に注ぎ込まれなかったことが一因とされています。



また、2021年8月の大雨により土砂災害が発生し、名尾手すき和紙が被災しました。旧工房での紙すきが続けられなくなり、新工房への移転を余儀なくされました。

このように、気候変動が各社に影響を与えています。次世代への継承に黄色信号が灯っています。

そこで、私たちは「地球にやさしい」カーボンニュートラルに取り組むことにしました。

「できることからやってみよう。」そんな気持ちではじめました。



5. SAGA COLLECTIVE のトランジション戦略

SAGA COLLECTIVE の行動原理

地球にやさしい、社会にやさしい、人にやさしいこと。地域のが次世代につながること。

いかなる取り組みも、この行動原理に照らし合わせて、実施するか否かの判断をしています。

カーボンニュートラルについては、「地球にやさしい」こと、「自然の力を次世代につなげる」

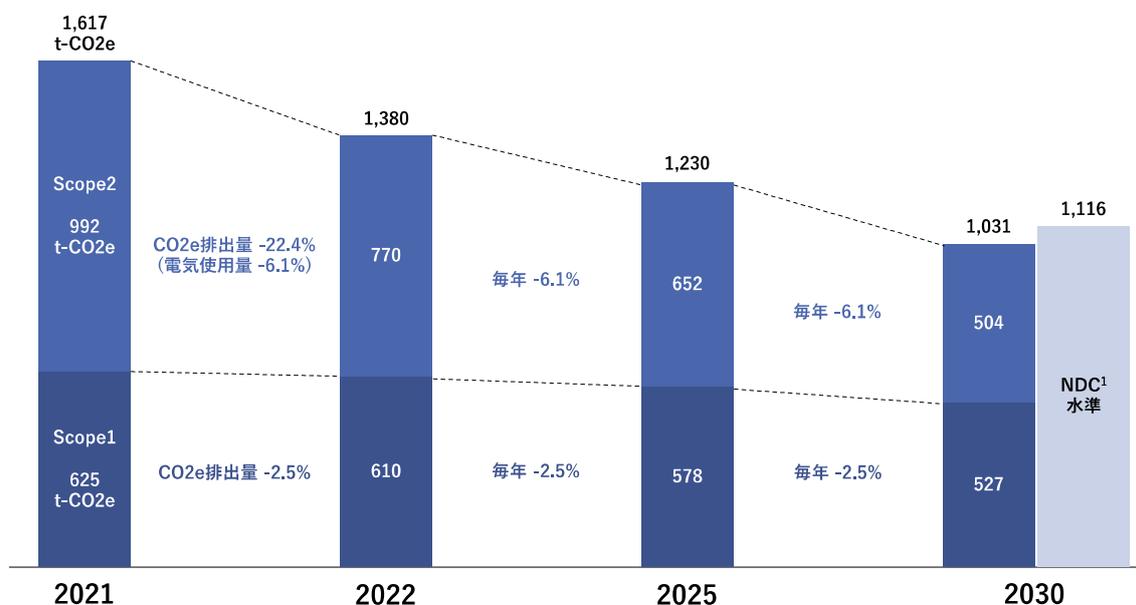
こととして、2021年より取り組んでいます。



2030年の目標

- ① CO2e 排出量 (Scope1,2) の NDC 水準¹を全 11 社が達成
- ② カーボンニュートラル商品 (Scope1,2) の売上比率 10%を全 11 社が達成
- ③ 円滑な事業承継の実現

2021 年および 2022 年の実績値、2030 年の目標値² (SAGA COLLECTIVE 全体)



¹ Nationally Determined Contribution : 国が決定する貢献

2050 年カーボンニュートラルと整合的で、野心的な目標として、我が国は、2030 年度において、温室効果ガスを 2013 年度から 46%削減することを目指す。さらに、50% の高みに向け、挑戦を続けていく。
(出典 : 地球温暖化対策推進本部「日本の NDC (国が決定する貢献)」)

² 再生可能エネルギーやクレジットをすでに一部活用しているが、これらによる削減効果は考慮していない。エネルギー使用量の削減効果のみでも NDC 水準を上回る目標設定をしている。

CO2e 排出量（Scope1,2）の NDC 水準 を全 11 社が達成

カーボンニュートラルの取り組みに着手した 2021 年および直近の 2022 年の実績値を集計しました。集計対象は、自社による Scope1（直接排出：ガス、重油、ガソリンなど）と Scope2（間接排出：電気）としています。

CO2e 排出量の可視化と他社との比較により、各社にて削減意識が芽生えました。照明の LED 化、社用車の EV 化など、具体的な削減活動につながり、2022 年は SAGA COLLECTIVE 全体で約 15%を削減しました。

エネルギー使用量ベースでは Scope1 において約 2.5%、Scope2 において約 6.1%を 1 年間で削減しました。この削減ペースを継続することで、2030 年に 2021 年比約 36%の CO2e 排出量の削減を見込んでいます。2030 年時点での CO2e 排出量は 1,031t、これは日本政府目標（NDC 水準排出量）1,116t を上回る、野心的な計画です。



（出典）環境省「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」

カーボンニュートラル商品（Scope1,2）の売上比率 10%を全 11 社が達成

削減しきれなかった CO2e 排出量を森林保全などで増やした CO2e 吸収量で相殺する、カーボンニュートラルな商品（生産における実質 CO2e 排出量ゼロ）の売上に関する目標も設定しています。この売上を原資に、持続的な CO2e の排出量の削減活動を実現します。

円滑な事業承継の実現

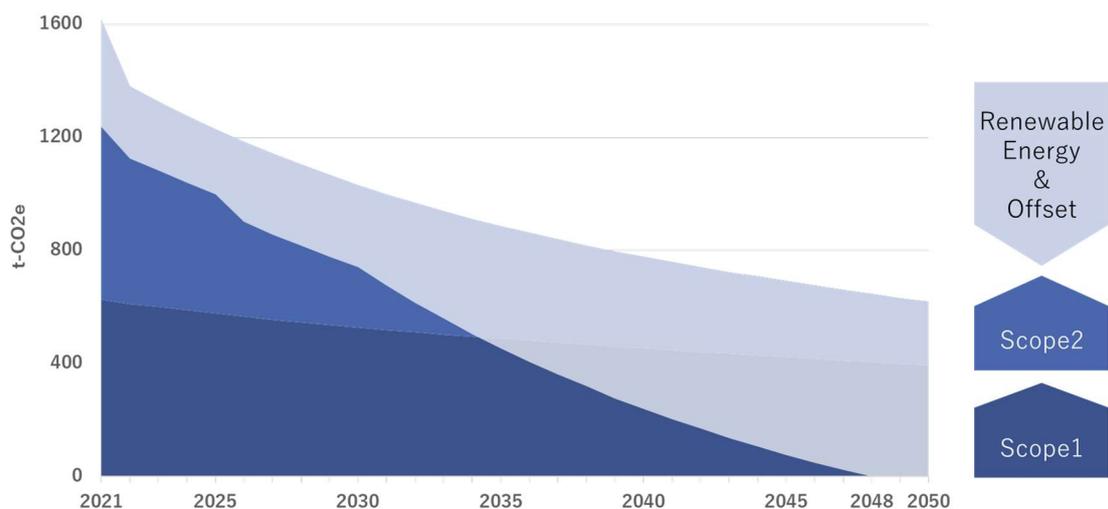
2025 年に 1 社が事業承継を予定しています。SAGA COLLECTIVE には事業承継を経験した 40 代の現経営者、事務局には中小企業診断士がおり、実践的かつ専門的なサポートが可能な体制です。安心して事業承継ができる舞台を整え、承継後の事業もサポートします。



2050年の目標

- ① CO₂e 排出量 (Scope1,2) のカーボンニュートラルを全 11 社が達成
- ② カーボンニュートラル商品 (Scope1~3) の売上比率 10%を全 11 社が達成
- ③ 円滑な事業承継の実現

2050 年にむけた実質排出量の推移予測³ (SAGA COLLECTIVE 全体)



³ 2021年および2022年のCO₂e排出実績より、エネルギー使用量の年間削減ペースをScope1は2.5%、Scope2は6.1%に設定。2050年までこの削減ペースを堅持する。

バイオマス重油や再エネ電気など再生可能エネルギーの活用による排出係数の低減、およびJクレジット等を活用したカーボンオフセットによるCO₂e排出量の相殺を加味し、2048年にSAGA COLLECTIVE全体でカーボンニュートラルを達成する。

CO2e 排出量（Scope1,2）のカーボンニュートラルを全 11 社が達成

エネルギー使用量の削減に取り組みつつ、再生可能エネルギーの活用も常に検討していきます。

CO2e 排出量の削減努力をした上で、排出権取引制度（Jクレジットなど）を活用して、どうしても削減しきれなかった分を相殺（カーボンオフセット）します。計画では SAGA COLLECTIVE 全体では 2048 年にカーボンニュートラルを達成する見込みです。

すでに 11 社のうち 6 社がカーボンオフセットによりカーボンニュートラルを達成していますが、CO2e 排出量の削減に引き続き取り組んでいます。カーボンオフセットの実施は到達点ではなく、通過点です。カーボンオフセットを実施することで CO2e の排出量をコスト換算することが可能となり、企業の収益性の観点からも削減努力を促すことができます。



カーボンニュートラル商品(Scope1~3)の売上比率 10%を全 11 社が達成

自社による CO2e 排出(Scope1,2)のみならず、サプライチェーン全体の CO2e 排出量(Scope3)の把握、削減、相殺に取り組みます。

調達、製造、輸送、使用、廃棄といった商品ライフサイクル全体をカバーしたカーボンニュートラルな商品を開発し、その売上をさらなる取り組みの原資とします。

円滑な事業承継の実現

現在 30 歳前後の後継予定者が 6 社に控えています。全 6 社の事業承継を円滑に行い、その次の世代に向けた新たな取り組みに着手します。



6. SAGA COLLECTIVE の取り組み

「把握」「削減」「相殺」の3ステップにて、カーボンニュートラルに取り組んでいます。

把握

各社のガス、重油、ガソリン、電気などのエネルギー使用量（活動量）を、エネルギー事業者からの明細書などをベースに把握しています。これに、環境省が公開する排出係数（排出源単位）を用いて CO2e 排出量を算出しています。

対象は Scope1,2 といわれる自社が排出している分であり、サプライチェーンの上流や下流での排出量（Scope3）は現時点では対象外としています⁴。



出典：環境省「サプライチェーン 排出量算定の考え方」

⁴ 経済産業省のGXリーグにおいて参画企業に求められている対応と同様（2023年9月時点）。

削減

CO₂e 排出量を算出することで、各社の削減すべきポイントが明らかとなります。

例えば家具製造業であるレグナテック株式会社は、電気による CO₂e 排出が大半を占めており、照明の LED 化や電力量モニタリングシステムを導入するなど、節電を重点的に行っています。

他方、酒類製造業である天山酒造株式会社は、重油による CO₂e 排出量が多く、重油ボイラーの運用改善や、より高効率な現行機種への入れ替えなどを検討しています。

このようなエネルギー使用量の削減努力を土台に、再生可能エネルギーの確保にも常に気を配ります。すでに 100%再エネの電気プランに切り替えている会社もあります。こういった取り組み事例を SAGA COLLECTIVE 内で共有し合うことで、各社の取り組みを強化していきます。



相殺

CO2 排出量の削減努力をし、残った分はクレジットにて相殺（カーボンオフセット）します。

私たちは地元の自然環境を保全するプロジェクト（自然由来のクレジット）を選定しています。

具体的には、「佐賀県有林間伐促進プロジェクト」によるJクレジット、および「串浦の美しい藻場を未来へ繋げるプロジェクト」によるJブルークレジットを調達しています。

調達にあたり、必ずプロジェクト現場の視察を行います。現場を確認し、自然環境の保全に取り組んでいる方々と意見交換をし、お互いの取り組みに賛同したうえで、クレジットの売買契約を結びます。クレジットを創る人と使う私たち、相思相愛の関係を構築し、クレジットの地産地消を実現しています。

お金を払うことで環境に負担をかける言い訳にならないよう、カーボンオフセットの実施においては「地元の自然由来のクレジットであること」「創る人たちと使う私たちが相思相愛であること」を大切にしています。



活用

SAGA COLLECTIVE の 11 社のうち 6 社が CO2e 排出量 (Scope1, 2) をすべて相殺し、実質 CO2e 排出量ゼロのカーボンニュートラルをすでに達成しています。その他の企業においても、SAGA COLLECTIVE を通じて販売する商品はすべてカーボンオフセットしています。つまり、SAGA COLLECTIVE で販売される商品はすべてカーボンオフセット済み (実質 CO2e 排出量ゼロ) となっています。

カーボンニュートラルな商品を共同開発し、SAGA COLLECTIVE の EC サイトなどにて販売しています。また、大手企業のノベルティやイベントの記念品への採用など、実績を積み上げていきます。エシカル消費市場を少しずつ開拓しています。

このように地球にやさしい (例: カーボンオフセット)、社会にやさしい (例: 地元原料の使用、伝統の継承)、人にやさしい (例: 自然素材)、3 拍子揃った「エシカル」な商品やサービスを販売し、財源を確保することで、本取組みの持続可能性を高める工夫をしています。



地域への還元

私たちが検証し実装したカーボンニュートラルのノウハウを、地域の皆さまに提供しています。

例えば、2023年9月30日に開催したJリーグサガン鳥栖のホームゲーム「SAGAN ゼロカーボンチャレンジマッチ（マッチスポンサー：佐賀県）」ではエネルギー使用量、観客の来場手段、ゲーム終了後の廃棄物回収量からCO₂e排出量を算出します。

事前調査では来場者の6割以上が乗用車で来場しており、移動によるCO₂e排出のうち7割以上が乗用車由来であることが判明しました。公共交通機関の利用を促すことでCO₂e排出量を削減する取組みに協力しています。

このように地域の企業や自治体とともにCO₂e排出量を可視化し、これに関わる生活者の行動変容を促すことで、カーボンニュートラルの取組みを普及させていく役割も担っています。

私たちだけがカーボンニュートラルを達成しても、気候変動を食い止めることができなければ意味がありません。私たちの取り組みを強化し続けるとともに、少しずつこの活動の輪を広げ、次の世代も、その次の世代も自然の恵みを楽しむよう、努力してまいります。

私たちは佐賀でものをつくっています。

とても楽しい仕事です。

永く続けたい仕事です。



発行者

SAGA COLLECTIVE 協同組合

佐賀県佐賀市諸富町山領 266-1

saga-collective.com